

第102回 (平成16年・秋季)

東京大学公開講座聴講案内

「いま、倫理の時代」

● プログラム

時間	講義題目	講師
【第1日】 9月25日 (土)		
13:30 ＼ 13:40	開講の挨拶	東京大学総長 佐々木 毅
13:40 ＼ 15:00	開発援助—貧しさへのまなざしと責任—	新領域創成科学研究科助教授 佐藤 仁 (専攻分野：国際資源環境学)
15:20 ＼ 16:40	技術倫理—社会のための技術とは—	原子力研究総合センター教授 班目春樹 (専攻分野：原子力安全工学)
【第2日】 10月2日 (土)		
13:30 ＼ 14:50	変わる倫理・変わらない倫理 —〈信〉という存在の次元とその変容—	人文社会系研究科助教授 熊野純彦 (専攻分野：倫理学)
15:10 ＼ 16:30	社会倫理学のすすめ	教育学研究科教授 川本隆史 (専攻分野：社会倫理学)
【第3日】 10月9日 (土)		
13:30 ＼ 14:50	医療事故—真の解決に向けた新たな取り組み—	医学系研究科講師 前田正一 (専攻分野：医事法)
15:10 ＼ 16:30	生命倫理と死生観	人文社会系研究科教授 島蘭進 (専攻分野：宗教学)
【第4日】 10月16日 (土)		
13:30 ＼ 14:50	倫理観とヒトゲノム —最新の脳科学の現状—	総合文化研究科教授 石浦章一 (専攻分野：分子認知科学)
15:10 ＼ 16:30	情報倫理の葛藤 —個人情報活用の活用と保護—	情報学環教授 須藤修 (専攻分野：情報経済)
【第5日】 10月23日 (土)		
13:30 ＼ 14:50	「みんなの森」を巡る葛藤を越えて —森はだれのものか?—	農学生命科学研究科助教授 井上真 (専攻分野：森林社会学)
15:10 ＼ 16:30	企業倫理とコーポレート・ガバナンス	法学政治学研究科教授 江頭憲治郎 (専攻分野：商法)
16:30 ＼ 16:40	閉講の挨拶	企画委員長 (人文社会系研究科長) 稲上毅

※やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合があります。

主催：東京大学・(財)東京大学総合研究会

「いま、倫理の時代」

開講にあたって

いま、倫理の時代。そういう実感が強い。どこか深いところで、人にも社会にも重要な変質あるいは地殻変動が起きているためではないだろうか。倫理とはいうまでもなく人の道、人間としてなにが大切か、どう生きるべきかを指し示すもの、それが倫理にほかならない。それが、いま大きく揺らいでいる。

なにが究極的に重要なことなのか、そんなことなど考える暇がない、忙しいからだという。たしかにそういわれてみれば、忙しいとは「心を亡くす」と書く。しかし、20世紀はビジネスの時代、だから心を亡くす時代、倫理の空洞化が自然の成り行きなどといって嘯いてはられない。

なにが大切なのか、その点で迷いはないという人もいる。しかし、多くの人が集まってみると、それぞれの見方が個々バラバラ、しばしば真っ正面から意見が対立する。そうした状況を、ポスト工業化だから価値観が多様化するのが自然なことなどといってきた。とまれ、その深い亀裂をどう埋めたらよいか、規範理論の構築か、譲り合いと妥協か、権力か、それとも最後は暴力なのだろうか。

いうまでもなく、現代は科学・技術の進歩がめざましい。最近も、ヒトクローン胚の研究を基礎的なものに限って認めていこうという総合科学技術会議生命倫理専門調査会の結論が報道されて、大きな注目を集めた。そういえば、〇〇倫理といった言葉をよく目や耳にする。いわく、政治倫理、企業倫理、労働倫理、生命倫理、環境倫理、情報倫理、医療倫理、技術倫理など、山のようにある。このように、倫理という言葉の前に多くの語彙をおくことのできる時代を私たちは生きている。

その一方で、仮にこれらを応用倫理と呼ぶとすれば、純粋倫理あるいは基礎倫理とでもいうべき領域あるいは問題が大きく頭をもたげている。ひとことでいえば、人間そのものについての省察が求められているからだろう。いったい、人間の欲望とはなにか、優しさとはなにか、個の尊重とはどういうことかといった問題について熟慮すべき時代の真っ直中に私たちはいる。

平成16年7月

第102回東京大学公開講座企画委員会

委員長 稲上 毅 (人文社会系研究科長)

各講義内容の概略

【9月25日（土）】

講義題目：開発援助—貧しさへのまなざしと責任—

新領域創成科学研究科・助教授 佐藤 仁

政府が困窮した自国民に手を差し伸べなくてはならない理由は明らかであるとしても、外国の貧しい人々に税金を用いて援助しなくてはならない理由は必ずしも自明ではない。外国で起こっていることであるがゆえに、大義名分と援助の現実とに乖離が生じることもある。この講義では、貧困の軽減や不平等の是正を意図して実施される開発援助がはらむ様々な倫理的問題を明らかにすると同時に、南北格差の観点から「国際正義」への視座を提供してみたい。

講義題目：技術倫理—社会のための技術とは— 原子力研究総合センター・教授 班目春樹

今、工学部はどこも技術倫理教育を始めている。これは国際資格取得に必須という外圧も影響している。だがそれは一面で、技術者として成長していく節目節目で専門家としての倫理観を確認することの大切さが認識された結果と考えたい。私は「予防倫理」という考えで教育を担当している。世間を騒がす事件は倫理観が全く欠如した人間が引き起こすものではない。予め倫理観を磨いておかないと切迫状況では間違いを犯す。だからこそ倫理について考えておくことが必要なのである。

【10月2日（土）】

講義題目：変わる倫理・変わらない倫理—〈信〉という存在の次元とその変容—

人文社会系研究科・助教授 熊野 純彦

私たちは今日、信と倫理の問題に直面している。たとえばいわゆる「自爆テロ」の背後に存在する、崇高なまでの強度をもった信をまえに、倫理の問題に直面しているのである。信それ自体は、人間にとって避けがたい存在の様式である。崇高な信がはらむ強度と日常の信がしめす深度とをつなぎあわせる思考がもとめられよう。それは、倫理をめぐるひとつの原理的な思考となり、倫理における変わるものと変わらないものにかかわる思考となるはずである。

講義題目：社会倫理学のすすめ

教育学研究科・教授 川本 隆史

社会の倫理について考えるとはどういう営みなのか。明治初年、岩倉使節団（1871～73年）に加わった久米邦武がヨーロッパの政治文化の特質を総括した一節——「欧洲ニテ政治ノ要ヲ論スル、必ス曰「ヂョスチス」ト「ソサイチー」トニアリト、「ヂョスチス」トハ権義ヲ明確ニスル謂ニテ、「ソサイチー」ハ社会ノ親睦ナリ」——を手がかりに、「正義」（ヂョスチス）と「社会」（ソサイチー）の《つなぎ目》を探っていきたい。主たる素材は、現代アメリカの倫理学者ジョン・ロールズの『正義論』（1971年）と本書が巻き起こした論争である。日本の社会保障制度を支える倫理についても触れたいと思っている。

【10月9日（土）】

講義題目：医療事故—真の解決に向けた新たな取り組み— 医学系研究科・講師 前田 正一

近年、医療事故は頻繁に報道され、医療紛争も増加の一途を辿っている。こうした紛争は、法的権利の問題や金銭的賠償の問題である前に、まずは情緒的なコンフリクトの問題であるように思われる。

事故はゼロにできるものではない。そうだとすれば、適切な事故対応のための体制が整備されていなければならない、そうでなければ、不毛な紛争が発生し、被害者が二重の苦しみを負うばかりではなく、加害者も臨床意欲を喪失することになる。

本講義では、医療事故の被害者・加害者の生の声を紹介しつつ、医療事故問題に対する新たな

な取り組みの必要性について考えてみる。

講義題目：生命倫理と死生観

人文社会系研究科・教授 島 蘭 進

日本ではなぜ、脳死・臓器移植がすんなりとは受け入れられなかったのだろうか。妊娠中絶をめぐる厳しい社会的対立が生じないのはなぜだろう。キリスト教の影響が強い欧米諸国とはずいぶん事情がちがう。お隣の韓国では、またたいへん異なる対応がなされている。文化が異なると、生命倫理の諸問題への考え方が変わってくる。死生観や価値観の違いが生命倫理の考え方に大きな影響を及ぼす。これは避けがたいことなのか。この困難は克服できるのだろうか。

【10月16日（土）】

講義題目：倫理観とヒトゲノム—最新の脳科学の現状— 総合文化研究科・教授 石 浦 章一

私たち人間の身体と心を形作る設計図であるヒトゲノムがほぼ完全に解読された。この結果、病気などに対する感受性、種の進化、人種差、などが明らかになっただけでなく、ストレスに対する耐性、危険を察知する閾値、そして記憶能力などにも先天的な違いがあるらしい、ということなどが明らかになってきた。脳科学や遺伝学の進歩によって私たちの心のメカニズムが解き明かされる社会ではどのような問題が起こるかお話ししたい。

講義題目：情報倫理の葛藤—個人情報活用の活用と保護—

情報学環・教授 須 藤 修

インターネットを基盤にした電子商取引の進展によって、大量の個人情報がオープン・ネットワークを介して取引されるようになった。このことは、適切な環境整備がなされないならば、大量の個人情報が漏洩したり盗まれたりする危険性が増大し、悪質な取引相手や取引関係のない第三者が容易に不正行為をなすう状況が生成していることを意味している。

この講演では、まず個人情報を積極的に利用した新たなサービスを展開しようとする動向について概観し、さらに個人情報に関する法的規制、NPO(非営利組織)などを積極的に活用したネットワーク規範形成・苦情処理、ADR(裁判外紛争処理)の動向、その実効性について考察し、最後に個人情報の積極的活用とその保護を両立しようとする新たな規範と制度について考えてみる。

【10月23日（土）】

講義題目：「みんなの森」を巡る葛藤を超えて—森はだれのものか?—

農学生命科学研究科・助教授 井 上 真

森は誰のモノか。「みんなの森」とは何か。「みんな」とは誰を指すのか。木材生産のみならず、環境保全やレクリエーションといった多様な機能を有する森の利用・管理を巡って様々な人々が対立し、あるいは協力してきた。コモンズ論(共用資源に関する議論)を駆使しながら、森林消失が激しく進行した熱帯地域を事例とし、解決へ向けての道筋を示したい。所有権の相対化、専門性の相対化、公共性の再定義など、熱帯地域/森林部門に限らず通用する普遍性のある話題を提供したい。

講義題目：企業倫理とコーポレート・ガバナンス

法学政治学研究科・教授 江 頭 憲 治 郎

産業界で「企業倫理(の徹底)」という場合、さほど高いレベルの企業行動規範を指すわけではない。総会屋への利益供与、インサイダー取引、談合など、ある類型の法令違反行為をしないようにとの意味である。これらの法令違反行為は、「企業犯罪」ではなく「企業不祥事」と呼ばれることが多い。企業不祥事はなぜ頻発するのか。企業倫理の確立は、企業組織のあり方をめぐる「コーポレート・ガバナンス」(企業統治)の重要テーマであるが、企業・法律のそれへの取り組みの現状と将来を探る。

東京大学公開講座聴講申込のご案内

聴講資格	成人一般・大学生・高校生
定員	800名（定員になり次第締め切ります）
会場	東京大学大講堂（安田講堂）
聴講料	全講義（5日間）4,000円 選択（1日）1,000円 ※高校生は半額とします。
申込受付	平成16年9月1日（水）から
申込方法	同封の「聴講申込書」または5ページをコピーしたものに、必要事項を記入の上、お申し込みください。詳しくは「聴講申込書」または5ページをご覧ください。
修了証書	全講義の聴講を申し込まれた方が3日以上出席された場合には、ご希望により修了証書を差し上げます。（選択申し込みで3日以上出席されても交付できません。）

東京大学への経路

1. 都バス（学バス）

御茶ノ水駅（東大構内行）終点下車
上野駅（東大構内行）終点下車

2. 都バス

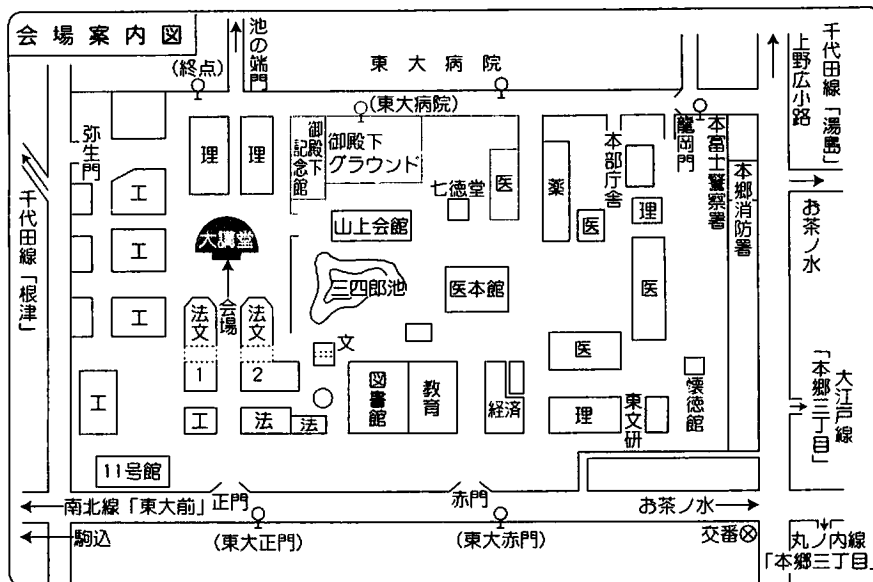
東京駅丸ノ内北口（荒川土手行）	東大正門
御茶ノ水駅（駒込駅行）	前下車

3. 地下鉄

大江戸線	本郷三丁目駅下車
丸ノ内線	本郷三丁目駅下車
千代田線	根津駅下車
南北線	東大前駅下車

○お願い

構内には、外来者のための駐車場はありませんので、自家用車でのご来学はご遠慮願います。



お申し込み先：〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総務部内
財団法人 東京大学総合研究会
お問い合わせ：電話 03-3815-8345（直通）
ホームページ：<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gen/gen3/koukai/index.html>

— 多数の方の聴講を心から歓迎いたします —

このページをコピーしてご利用ください。

聴 講 申 込 書

一 般	ふりがな 氏 名		年齢	才	
			性別	男 女	
高 校 生	高校名 ふりがな 氏 名	高校 年	年齢	才	
			性別	男 女	
現 住 所 連 絡 先	〒 - - 電話 - -				
職 業	公 会 教 自 自 学 高 主 無 そ 務 社 ・ 員 ・ 由 ・ 営 ・ 校 ・ 婦 職 他 員 員 員 業 業 生 生 婦 職 他				
希望受講日に○を記入		申込締切日 (必着)	聴講料 (高校生は半額)		合計聴講料 ¥
9月25日		9月21日	¥1,000		
10月 2日		9月28日	¥1,000		
10月 9日		10月 5日	¥1,000		
10月16日		10月12日	¥1,000		
10月23日		10月19日	¥1,000		
全講義 (5日間)		—	¥4,000		

【受講料のお支払い及び申し込み方法について】

※申込み方法が変わりました。

聴講料を、最寄りの郵便局から下記の口座へお振込みください。

振込後、「郵便振替払込金受領証」のコピーをこの用紙下記に貼付し、官製はがき（あらかじめ宛先欄に申込者の住所・氏名をご記入ください）を同封の上、封書でお申送ください。折り返し、聴講券をお送りいたします。なお、聴講券は講座当日にご提示いただきますので必ずご持参ください。

☆振込先

口座番号	00100-6-110037
加入者名	東京大学総合研究会

☆いったん頂いた聴講料は返還できません。ご注意ください。

※申込書は下記まで（各講義締切日必着）お送りください。

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総務部内

財団法人 東京大学総合研究会

※お問い合わせ 電話 03-3815-8345（直通）

郵便振替払込金受領証コピー貼付欄

(受領証そのものでも構いませんが返却はできませんのでご注意ください)